

活動報告

ポルトガルでの第 19 回欧州 WONCA (世界家庭医機構) 大会に出席して

板東 浩*

はじめに

日本プライマリ・ケア (PC) 連合学会は, WONCA の一員として国際的に指導的立場を担っている. 2005 年に開催された京都 WONCA 大会をはじめとして, 本学会はアジア太平洋や欧州地域など諸外国からの評価も高い.

欧州 WONCA 大会 (イスタンブール 2008, ワルシャワ 2011) の概要は以前に報告した. 今回リスボンで行われた第 19 回大会に出席し, プライマリ・ケアの哲学に関する講演も拝聴できたので, 簡単に報告したい.

1. 言語と地理の理解

欧州 WONCA 会議での公用語は英語で, 本大会や主な観光スポットではコミュニケーションは円滑である. 一方, リスボン市内に出てみると, 英語を通じない場合が多い. ここで思い出したのが, 言語と地理の関係である.

以前, 南アメリカの WONCA に参加した際に気づいた点がある. 大会運営で協調関係が深い国として, 北アメリカ (米国, カナダ, 英語圏) よりも, むしろイベリア半島 (Iberian Peninsula, ポルトガル, スペイン語圏) であることだ. つまり, 地理的近接性よりも, 言語的同一性が優先され, Ibero-American 地域での活動がみられる.

2. 19th Europe WONCA

第 19 回 欧州 WONCA 大会は 2014 年 7 月 2-5 日に, Centro de Congressos de Lisboa で開催された (図 1, 2). リスボン市内の中央駅から, 車で 10 分の距離にある国際会議場だ. 参加者は 73 カ国から 3700 名と大規模になり, 実行委員会から得た詳細なデータをまとめた (図 3, 表 1).

開会式では, 欧州 WONCA 会長の Job Metsemakers 氏が世界から多数の参加者を迎え, 今回テーマで in-

spire され, 交流を深めてほしいと挨拶した. また, 同国 GP/FM 学会会長の Joao Carlos 氏や実行委員会の Luis Pisco 氏が歓迎の挨拶を行った (図 4).

引き続き, 基調講演「Orchestrating Medicine」が行われた. かつては医学生であり, 現在は非常に優れた指揮者として知られる Joana Carneiro 女史が, 医学と音楽, 芸術について語った. 実際にオーケストラの各楽器のパートを次第に重ねていきながら, 音楽の素晴らしさ, GP/FM におけるスタッフのチームワークの重要性に触れた. 作曲家シューマンを患者として分析し, 治療を勧めていくプロセスは秀逸で, 聴衆は感動して拍手喝采, 最後はスタンディングオーベーションで開会式を終えた (図 5).

3. 多数の発表

今回の大会テーマは, 「New routes for general practice and family medicine」である. プログラムで印象深いマネジメントがみられた (図 6). 通常の学会では, 教育講演や講演, ポスターなど, ジャンル別に発表順番の数字をつけていく.

しかし, 本大会では, すべての発表の整理番号が大会事務局への到着順, No.1~1846 まで, 申込みの段階から同じ数字で対応し, これも一つの効率化の方法と思われた.

学会運営は洗練され, well-organized であった. 大講義室でのレクチャーは, タイムマネジメントが徹底されており, ほとんど時間通りに円滑に進んだ (図

表 1 19th Europe WONCA の概要

1. 参加者		2. 大会企画	
参加者総数	3,700	セッション	202
通常参加者	(58%)	使用講堂	19
若年 GP	(35%)	基調講演	5
医学生	(3%)	口演発表	445
WONCA 会員	(4%)	ワークショップ	100
		ポスター発表	1,041

*著者連絡先: きたじま岡病院/徳島大学 [〒 771-0204 徳島県板野郡北島町鯛浜川久保 30-1]
email: pianomed@bronze.ocn.ne.jp
(受付日: 2015 年 2 月 12 日, 採用日 2015 年 2 月 23 日)



図 1



図 2

73 countries (36 countries from Europe)



図 3

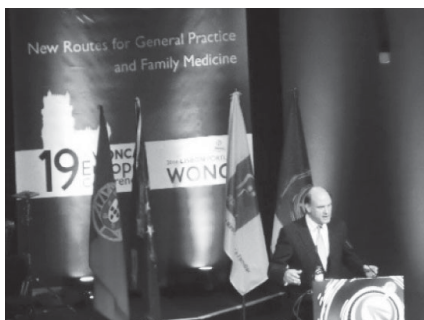


図 4



図 5

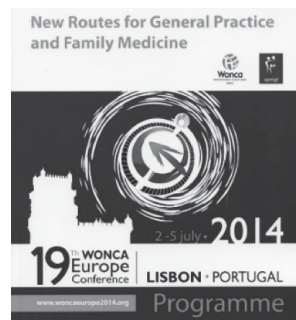


図 6



図 7



図 8

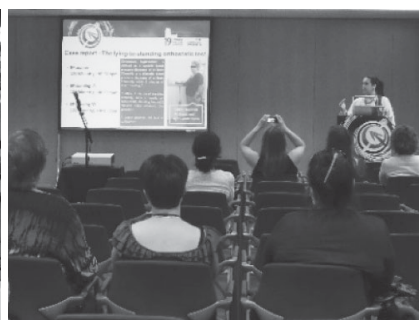


図 9

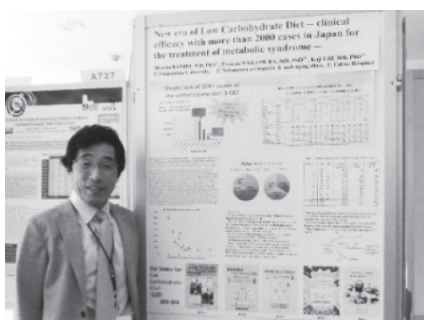


図 10

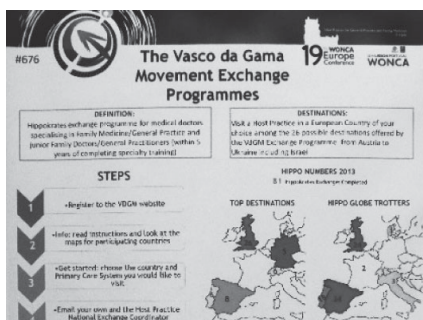


図 11



図 12

7). 休憩時間には、コーヒー休憩や移動により通路は人々で溢れていた (図 8).

小さな教室でのワークショップは 100 も企画されており、参加者誰もが活発に発言し、熱気に帯びていた。医学教育やプレゼンテーションの技術や方策は慣れているように感じた (図 9).

筆者は、糖尿病におけるカロリー制限と糖質制限に関してポスター発表を行った。その際、ポルトガルの

糖尿病専門医と議論をすることに。同国では 20~79 歳における糖尿病の罹患率は 12.9% であり、日本より少ない。近年肥満の増加とともに、メタボも増加中という。欧米と日本における食事の差異や、人種によるインスリン抵抗性の違いなどについて、興味深い学びの機会を得た (図 10).

4. Vasco da Gama movement

欧州 WONCA の活動で、筆者が従来注目しているのが、「バスコ・ダ・ガマ活動 (Vasco da Gama movement)」である。毎回 WONCA が開催されるとき、欧州全域から若い卒後研修生が参集してくる。長年にわたり、欧州全体で卒前卒後研修制度や内容について、議論や活動、WONCA や各国医学機関に対するアプローチが継続してきた (図 11)。次第に、活動が広まりをみせており、各国の活動も順調で、WONCA から毎年いろいろな補助を受けている。

ポルトガルの航海者、探検家の Vasco da Gama (1460 頃～1524) は、ヨーロッパからアフリカ南岸を経てインドへ航海した最初のヨーロッパ人とされる。インド航路の開拓によって、ポルトガル海上帝国の基礎が築かれた歴史が導かれ、同国が誇る偉人の一人である。

このたび、同国での WONCA 開催にあたり、興味深い企画として「リスボン宣言」が発表された (図 12)。その中で、欧州では現在、経済状態など様々な

危機的状況がみられる。このような時期に、人々の様々な健康問題を効率的にも経済的にも解決できるのが primary health care を担当する family doctor であり、各国における理解と協力がさらに期待されていると述べている。

おわりに

このたび、筆者は第 19 回欧州 WONCA に出席し、大会の概要を報告した。その中で、円滑な大会運営、医学と芸術に関する基調講演、Vasco da Gama 活動、欧州における社会経済医学的危機に対する Family Doctor の役割などについて触れた。本記述が我が国の primary care のさらなる発展に多少とも参考になれば幸いである。

関連資料

- 1) www.woncaeuropa2014.org/
- 2) www.vdgm.eu/